# ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

| | |
|---|---|
| **教員氏名** | 二俣　泉 |

| | |
|---|---|
| **主な担当科目** | 音楽芸術運営特別演習②,音楽療法テクニックⅤ,音楽療法テクニックⅥ,音楽療法の理論と技法論Ⅱ,音楽療法概説,音楽療法各論Ⅰ,音楽療法指導研究,音楽療法上級実習Ⅱ（障がい児）,施設実習Ⅰ,修士特別研究（音楽療法）①,修士特別研究（音楽療法）②,卒業論文（原著講読含む）,教職実践演習,ミュージカル・ワークショップⅡ |

| | |
|---|---|
| **2025年の教育目標・授業に臨む姿勢** | 1）学生の論文作成能力を向上させるための取り組みを行う。<br>2）担任を担当する学生に対しては、個別面談を複数回実施する。また、欠席が目立つ学生については頻回に面談を行ない（原則として必ず専任教員2名で実施）、本人の状態を把握し、事務局とも連携しつつ指導を実施する。<br>3）自身の運営するYouTubeチャンネル「音楽療法をまなぶ」に複数の講義ビデオ（二俣が制作したもの）を複数アップロードし、学生の予習・復習に活用するよう推奨する。 |
| **2025年の教育に関する自己評価** | 1）2024年の1月～3月、学部3年生に卒論の研究計画に関する頻回の指導を行った結果、4年次開始時に4年生全員の研究テーマが確定し、全員が順調に卒論執筆ができた。卒論のテーマに関する適切な指導ができたと考えられた。学部4年生が日本音楽療法学会学術大会の口頭発表に応募して採択された（特別評価項目に記載）ことに加え、今年度の<br>2）1年生に、欠席が目出つ学生が複数いたが、個別面談の結果出席状況が改善した。3年生の欠席が目立つ学生への面談を行ない、出席の状況が顕著に改善した。<br>3）YouTubeチャンネルに動画は、学生の学修に有用だった。とりわけ、「音楽療法における、音楽療法士と対象者との即興演奏を介したやりと李」抜粋を収録した動画を複数アップロードしたので、学生はその動画を何度も視聴することで、学生の「音楽療法における即興演奏技術」の向上に寄与したと考えられる。 |

| | |
|---|---|
| **2025年のFD活動に関する自己評価** | ・音楽療法分科会FDでは、二俣が個々の学生の特徴を踏まえた授業運用の方法（心理学の学派の一つである、応用行動分析学に基づくアプローチ）について、分科会の教員と共有した（根拠資料「教員と学生が、共にハッピーに授業に取り組むための工夫」を参照）。 |
| **授業改善のために取り入れた研修内容** | ・上記の方法（授業内における目標とする行動を設定し、それが学生から自発されるために、行動の手がかり・行動に対する手応え・興味をひくための動機づけの工夫）を実施した。その結果、授業内における学生が意見を自発的・積極的に発するようになり、授業内での学生相互の議論も活発になった。 |

# 2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2915　教員名：二俣 泉

## 1）アンケート結果に対する所見

今回の授業アンケートの対象となった音楽療法コースの授業「施設実習Ⅰ」「音楽療法の理論と技法論Ⅱ」「音楽療法テクニックⅥ」では、ほぼ全ての項目が3.5を超える得点であり、いずれの授業についても学生の授業に対する満足度は高いと考えられた。

授業運用上の工夫としては、「音楽療法の理論と技法論Ⅱ」では毎回、授業冒頭に前回までの授業内容についての小テストを実施し、学生の予習・復習を動機づけ、かつ教員が各学生の理解度を確認しながら進めたこと、「施設実習Ⅰ」では学生相互のディスカッションをほぼ全ての授業で実施したこと、「音楽療法テクニックⅥ」では各学生の即興演奏への抵抗を減じるワークや各学生の得意な面を引き出す配慮等が効を奏したものと考えられる。

## 2）要望への対応・改善方策

改善点への要望は特になかったため、2025年度の授業運用は適切だったものと思われる。今後さらに各学生の習熟度を踏まえたきめ細かい配慮を行っていくつもりである。

## 3）今後の課題

留学生の比率が増加傾向にあるため、今以上に個々の学生の学修状況を把握して、きめ細かい授業運用を行いたい。

以　上